すながわ観光協会

2026年
令和８年１月
発行

発行：砂川観光協会　〒073-0161　砂川市西1条北2丁目1-20　TEL：(0125) 54-4995　FAX：(0125) 54-4994
https://sunagawa-kankou.com/

新年を迎えて

砂川観光協会
会長　石家裕二

皆様におかれましては、健やかに輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申しあげます。

旧年中は、多くの市民の皆様をはじめ、砂川市、砂川商工会議所、関係団体、会員各位の特段のご理解とご協力を賜り、当協会の事業運営を円滑に進めることができましたことに、心からお礼を申し上げます。

さて、昨年は、4月20日にオープンした「まちなか交流施設すないる」内の一室に観光協会の事務所を移転するとともに、当施設の指定管理を担うこととなる大きな節目の年でありましたが、皆様のお力添えにより滞りなく移転作業を終え、観光案内、イベントの実施はもちろんのこと、商工会議所と連携しながら、安心・安全な施設の管理に努めております。

施設の運営面におきましても、市と連携して行った「オープニングセレモニー」に1，000人を超えるご来場をいただくなど、新たな賑わいを創出する集客施設として素晴らしいスタートを切ることができましたし、その後も「子ども遊具スペース」や「カフェ」、「多目的室」でゆっくり過ごされる方、勉強をされる学生さん、各団体による会議の開催に加え、物販イベントやキッチンカー販売などシーズンを通して様々な用途で利用され、昨年は60，00人を超える来館者で賑わったところであります。

引き続き、当施設がまちなか回遊の拠点として多くの方に立ち寄っていただける魅力のある施設となるよう、より安心・安全な管理体制の構築と施設機能の充実を図ってまいります。

また、観光振興に目を向けますと、全国一律の統計調査では、本市を訪れる観光客の人数はコロナ禍以降回復傾向にあり、空知管内でも上位に位置しております。

当協会としましても、主催事業や事務局の中心を担う事業の効果的な実施や、市内で行われたイベントへの支援と合わせ、各実施団体と必要な連携をさせていただいたことで、まちの賑わい創出に寄与できたものと考えております。

特に、主催事業である「すながわスイートマラニック」は、各団体や事業者の皆さんのご協力のもと、前回を大きく上回る432人の方にご参加をいただき砂川の魅力を発信出来ましたし、事務局を担った「ラブ・リバー砂川夏まつり」は、夏まつり実施本部会議の中で十分検討を行った中で、商工会議所が主催する「砂川納涼花火大会」と納涼盆踊り大会実行委員会が主催する「砂川納涼盆踊り大会」を同日開催とし、これまでの金曜日から土曜日の開催に変更したことで、大きな集客につながったものと考えております。一方で、ご参加いただける方が増えたからこその課題も散見されたことから、本年、開催日を含め、より魅力のあるイベントとなるよう協議を重ねてまいります。

なお、2月には砂川を会場とした冬まつりとして、1日の日曜日に北海道子どもの国協会が主催する「子どもの国ウィンターフェスティバル」、8日の日曜日に青年会議所を中心とした実行委員会体制で行われる「すながわ冬まつり」が開催されますので、多くの皆様にご来場いただけますようお願い申し上げます。

今後におきましても、砂川の観光事業の健全な発展と振興を図るため、自ら企画するイベントの魅力の向上や観光関連事業に対する支援をはじめ、ホームページ・SNSなどによる情報発信、さらには、「まちなか交流施設すないる」を効果的に活用したイベントの開催など、様々なニーズに対応できる組織づくりや観光を通じたまちなかの賑わい創出と地域の活性化に努めてまいりますので、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

本年も皆様にとってご健勝で幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

（砂川観光協会役員一同）

顧問
飯澤明彦
多比良和伸
善岡雅文

相談役
稲村久男
水島孝嗣
其田勝則
高村雄渾
三土壽廣
山崎義彦
水島美喜子
林誠
工藤英博
信太勝見
北谷好文
南野峰彦
石家裕二
泉山利彦
染谷昇

会長
堀田拓也

副会長
増中雄司
八幡弥美
山田巌
渡部延三
池内一也
石田健太
瓜田秀彬
大橋孝弘
片山順一
河端壽一
作田清之
佐々木薫
佐藤勝
佐藤浩祥
田中秀聡
中村和弘
野田勉
平間芳樹
増井浩一
水島聖一
皆上泰信
山内勝人
八巻公史
尾秀明
平田恭一郎

理事

監事

（敬称略・順不同）